

清月記 SPECIAL対談

第3回 平賀ノブさんが語る「女性の生き方」



家族、会社を持ちながら、仙台ばかりでなく、東北、日本全国を、多くのボランティア役職を持って、毎日、飛び回っている平賀さん。人との出会い、これからの時代をどう生きていくべきか、伺いました。

「世の中は丸くて終わらないのよ」



菅原 裕典
すがわら・ひろのり
1960年宮城県塩釜市生まれ。83年東北学院大学経済学部経済学科卒業。83年名古屋・中京葬儀社入社。85年3月、父・清一とともにすがわら葬儀社設立。89年仙台メモリアルサービス設立、社長就任。2000年工ボックせんだい設立、社長就任。01年社会福祉法人無量壽会理事長就任。01年せんだい泉工場放送取締役。01年(株)すがわら葬儀社社長就任。10年宮城学院中学校・高等学校父母教師会会長就任

「体育大学時代に段取る楽しさを覚えました」

菅原 仙台お生まれと聞いてました。

平賀 近くに仙台白百合学園があった青葉区の元寺小路(家具の町)です。石巻の北洋漁業の5男坊が私の父で、仙台の東二番町で鯉節屋さんを営んでいました。母は岩手県の小田島薬品という薬問屋の4女です。

私は二番町小学校に入学しましたが、戦争で鯉節の店舗が全焼して家は石名坂に移り、荒町小学校に行きました。母方の実家が、列車に使う豆炭とか練炭の特許を持っており、父は石名坂の豆炭工場でその製造もしていました。終戦後、その工場が水害に遭い豆炭が流され、その後はメリケン粉の配給もあって、父は煎餅屋とうどん麺製造を

やりながら、学校給食ソフト麺センター組合を作り、七北田に工場を建て、初代理事長として、大久さんや千鳥屋さんとともに、全国を飛び回っておりましたね。

菅原 宮城学院高等学校から東京女子短期体育大学に進んでらっしゃいますね。

平賀 高校でカルタを指導していた宮城学院大学の椿多摩先生に、東京女子短期体育大学を紹介されたんです。私、よく体育館で踊ったりして、体育も大好きだったんです。母からは、三味線、お琴、お花のお稽古事をやらせてもらいましたが、ある日突然、体育大学に行きたいと言ったら、「お行き」って。

菅原 当時、東京に行かせるのは海外に出すのと同じ、しかも娘さんですから。平賀 東京・吉祥寺の大学寮で、30人一部屋。畳一枚と

ミカン箱が私の取り分なんです。家から煎餅が送られると30人で一緒に食べる。そんな時代でしたね。

菅原 どのような女子大生だったのですか。

平賀 私ね、器械体操をやっていた、東大を

始めとした東京の大学の学連の役員をやったのです。競技会の企画、会議のやり方なんかを、必死に皆さんにくっついて覚えめました。その時に、人との調整、段取りとか、勉強以外のプラスアルファを自然と身につけることが出来たんです。同時に英会話スクールにも通ったり、大学時代は最大級に満喫しました。

菅原 器械体操をやったらしたんですね。いつも平賀さんは背筋をきっちり伸ばされて、疲れたお顔を見せたことがない。

平賀 「背筋を伸ばせ、腹に力を入れろ」って、当時の大学の伊澤エイ学長さんの言葉も今でも覚えています。私、一度買った洋服はずっと着て



清月記本社で

るんです。だから何年もウエストサイズを変えない、変えられないのです。私の会社では体育系しか採用しません。おかげで30年も勤めている社員が3人もおります。

「縁ターネット」ではなく「インターネット」なんです

菅原 幅広く様々な世代とお付き合いされてますね。

平賀 私の原点にあるのは、今になって思うのですが、「隣人を愛せよ」ということなんだと。学校で教えられた精神が生きているなあと思うのです。

菅原 東北学院中高奨学会会長をしていたとき、子どもたちに、「君たち3年、6年間毎日礼拝は大変だと思っ



平賀 ノブ
ひらが・のぶ

1938年、仙台市生まれ。
●宮城学院高等学校から東京女子体育短期大学卒業。メイウシヤマのハリウッド美容専門学校卒業。
●常磐木学園高校、仙台市立宮城野中学校教諭。東北学院大学史学部講師。仙台市青葉区中央で化粧品販売などの有限会社ひらがを創業。
●常磐木学園高校の教諭時代には、体操の指導者として、東北から初の体操オリンピック候補の古山泰子選手を育てる。
●全国商工会議所女性会連合会常任理事、東北六県商工会議所女性会連合会会長、宮城県商工会議所女性会連合会会長、仙台市商工会議所女性会連合会会長、財団法人全国法人会連合女性部会連絡協議会副会長、宮城県内法人会女性部会連絡協議会会長など、多くの公職に就いている。
●一男一女。お孫さんが7人。「今、楽しいのは雀踊り」。

ど、卒業して歳を経ると、皆さんにとってはものすごい価値になる。ここで歌った賛美歌、読んだ聖書、先生からの説教は、覚えていなくても必然的に染みこんでいる。これはすごい財産なんだ」と、話したことがあります。

平賀 自分が大変なのに、人のためにやること。人に喜んでもらったという満足感が自分の中にあることが、幸せなんだと思います。

菅原 数え切れないほどの役職をされていますね。

平賀 スペシャルオリンピックス、仙台いのちの電話設立のときも声をかけて下さって、なぜか巡り会う人生なんです。声をかけて下さるだけでも嬉しいことなのです。インターネットではなく、縁ターネットなんです。うちにはお金はないけど、人という人財産がある。それがあ

れば、どんな時代になったって生きていける。世の中は丸く回って終わらないのです。

菅原 それは日頃の種まきしかありませんね。

平賀 大原好子さんが仙台商工会議所女性部会長時代に、私は幹事長とかの役職で支えました。法人会や防衛協会の女性部会を作るときも、いろんな方との出会いがありました。おかげで無形の財産を得ることができました。段取りすることができました。段取りすること、ほど面白いものはありません、楽しいですね。

菅原 費用対効果ではなく、手弁当で、分け合ってお互い助け合う、それが日本の文化なんです。ところで、ご主人とはどちらで知り合ったのですか。

平賀 常磐木学園の同僚なんです。その後二人とも公立の学校に移りましたが、常磐木のときは、体操道具を揃え

て頂いたり、当時、松良三先生には大変お世話になりました。母の影響で化粧品販売の会社を立ち上げ、二人の子どもを育て義母の介護をやりながら、東北学院大での講師時代から、化粧品を入れたバッグを持って、企業訪問をしました。今は、化粧品、タバコ、切手類の販売のほか、美容、ブライダルも行っています。

痴呆症になった母を介護していました。母をおんぶしながら「おばあちゃん大丈夫だからね」と言ったとき、涙が止まらなかつたのを覚えています。家族はもちろん、皆さんに支えられているのです。

これからも人を思いやる方と出会って生きていきたい



「いま、雀踊りが楽しくて」。4年前の5月、仙台青葉まつりで踊る平賀さん(青葉区一番町)

菅原 人は、最期まで生き抜き、自分は満足だったなっと思える人生は素晴らしいですね。生き抜いて最期のときに、多くの人が来て、それを見た残された家族が、「うちの親は大したものだ」と思うこと、それが家族に教えられることなんです。

平賀 最期の時に手を合わせるでしょう。その文化って、言葉では伝えられない素晴らしいものだと思います。

一緒に思いやれる世界を持つている方は尊敬します。だからボランティアをしている方は大好きなんです。思いやる精神を持つ方と出会って、これからも生きていきたいですね。

四季の彩り

一乃庵.

ichinoan

お問い合わせはフリーダイヤルへ
0120-08-1151

オーダーメイドの料理サービスをめざして。

グルメという言葉が当たり前になった現在、ありきたりのサービスでは、お客様を「おもてなし」することはできません。

季節や、旬、地産地消、さらには料理法や器選び、盛りつけまで個性の光る料理サービスを私たちはご提案します。

海外で味わった思い出のメニューを、大好きなお母さんの得意料理も、オーダーメイドで承ります。

正統的な様式美だけでなく、あなただけの、ご家族だけの印象的な演出も加えて。「きっと思い出になる」そんな素敵な時間をお届けします。

一乃庵 菅原 裕典